

神奈川県におけるアオウミガメ、タイマイ、オサガメの記録

丸山一子・中村一恵

Kazuko Maruyama and Kazue Nakamura:

Records of the Green Turtle, Hawksbill Turtle and Leatherback Turtle Observed
in Kanagawa Prefecture

はじめに

日本近海に來遊するウミガメとして、ウミガメ科のアカウミガメ (*Caretta caretta*)、アオウミガメ (*Chelonia mydas*)、タイマイ (*Eretmochelys imbricata*)、ヒメウミガメ (*Lepidochelys olivacea*)、オサガメ科のオサガメ (*Dermochelys coriacea*) の2科5種が確認されており、神奈川県では、このうちヒメウミガメを除く4種の記録がある(柴田, 1968, 1972; 中村, 1973, 1977; 中村・川瀬, 1976ほか)。

主な來遊種であるアカウミガメについては、丸山・中村(1998)が記録をまとめ、生息状況を報告した。他のウミガメ類は確認数も少なく、これまで來遊状況が明らかにされていなかった。本報告ではアオウミガメ、タイマイ、オサガメに関する記録を収集し、來遊状況の分析を試みた。

調査地域および調査方法

調査対象域は、相模湾(湯河原町～三浦市城ヶ島)および東京湾(川崎市～三浦市城ヶ島)に至る神奈川県沿岸全域とした。

ウミガメ3種について、既報の記録、沿岸の自治体および県の機関が所蔵する記録、博物館・水族館の所蔵する標本と記録、および新聞記事を1999年の記録まで収集した。また、これら3種とアカウミガメを比較するために、丸山・中村(1998)への収載以後に得られたアカウミガメのデータを追加収録した。

今回の記録の中で大きな割合を占める神奈川県水産課による定置網の調査は、1989年に始められ、1998年までの記録がまとめられている。本報告には、定置網での確認記録を、ウミガメ3種については1989年～1998年の範囲で、アカウミガメについては1996～1998年の範囲で収録した。定置網には、水深が27mより深い沖合に設置される大型定置網と、水深27mより浅い海域に設置される小型定置網

があり、ウミガメ類が確認されるのは主に大型定置網であるという。大型定置網は5年毎に免許が更新され、設置数変動する。神奈川県水産課の資料に基づいて、1989年の夏期から1998年の夏期の間の大型定置網設置数の年平均値を自治体別に求め、参考として表6に示した。

今回収集した資料を用いて、3種の確認数を年別および自治体別に整理し、來遊状況について分析を試みた。

結果

収録したウミガメ3種の確認場所、確認日時、確認状況、情報源を表1～3に示す。個体数が記されていないものは1個体の記録である。今回、収録された3種のウミガメは、総数で51件84個体だった。内訳はアオウミガメ30件60個体(表1)、タイマイ12件14個体(表2)、オサガメ9件10個体(表3)である。アカウミガメの追加データは17件72個体で、表4にまとめた。

大部分の個体は沖合で確認されており、そのうち定置網で記録されたのはアオウミガメ54個体、タイマイ8個体、オサガメ3個体だった。定置網における観察個体の多くは神奈川県水産課による調査によって得られたものである。定置網以外での確認は、アオウミガメ2個体、タイマイ4個体、オサガメ3個体であった。

海岸で確認されたのは、死体漂着がアオウミガメ2個体、タイマイ1個体、オサガメ4個体、生体漂着がアオウミガメ1個体で、3種のいずれにおいても上陸は確認されなかった。

年別確認数を、神奈川県水産課による定置網調査が始まった1989年以後1999年までについては1年毎に、それ以前の期間については10年毎にまとめて表5に示す。アオウミガメは、1989年以降10年間の確認個体が全60個体中57個体と大部分を占めていた。

表1. アオウミガメの記録.

日時	場所	状況	文献	備考
1972. 04. 11	横須賀市久里浜湾	捕獲, 生体	柴田(1972), 中村	
1976. 03. 08	三浦市城ヶ島大橋下	漂着, 生体	中村(1977)	甲長40cm, 野毛山動物園→油壺マリンパーク
1976. 06. 06	葉山町森戸海岸沖名島	定置網	中村(1977)	甲長41cm, アオリイカ定置網にかかり油壺マリンパークに収容
1985. 秋?	横須賀市長井沖	定置網	池田氏情報(未発表)	甲羅のみ池田氏所有
1989	神奈川県沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1990	小田原市沖	定置網	神奈川県水産課資料	江ノ島水族館に寄贈
1991	三浦市上宮田沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1991	真鶴町沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1991	鎌倉市沖	定置網, 5個体	神奈川県水産課資料	放流
1992	三浦市上宮田沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1992	三浦市諸磯沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1992	横須賀市長井沖	定置網, 4個体	神奈川県水産課資料	うち死亡2個体, 下記の池田(未発表)とは別のデータと思われる
1992	鎌倉市沖	定置網, 4個体	神奈川県水産課資料	放流
1992. 06.	横須賀市長井沖	定置網	池田氏情報(未発表)	全長80cm, 葉山しおさい博物館所蔵標本
1993	横須賀市長井沖	定置網, 7個体	神奈川県水産課資料	うち死亡1個体
1993	三浦市金田沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1993	三浦市諸磯沖	定置網, 4個体	神奈川県水産課資料	放流
1995	三浦市諸磯沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1995	藤沢市片瀬沖	定置網, 2個体	神奈川県水産課資料	放流
1995	鎌倉市海岸	漂着, 死体	神奈川県水産課資料	
1995	横須賀市長井沖	定置網, 4個体	神奈川県水産課資料	放流
1995. 05.	横須賀市荒崎沖	定置網(小型)	池田氏情報(未発表)	甲長30cm, 確認のみ
1997	三浦市下宮田沖	定置網, 7個体	神奈川県水産課資料	放流
1997	不明	捕獲, 生体	神奈川県水産課資料	洋上で徒手採捕, 八景島シーパラダイスに持込まれ, 沖合に放流
1998	三浦市諸磯沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1998	鎌倉市沖	定置網(小型)	神奈川県水産課資料	放流
1998	真鶴町岩沖	定置網, 2個体	神奈川県水産課資料	混獲時死亡, 埋葬
1998	真鶴町真鶴岬沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1998. 09. 16	鎌倉市七里ヶ浜	漂着, 死体	江ノ島水族館記録, 神奈川県水産課資料	曲甲長90cm, 推定体重90kg, 雌, 鎌倉市役所からの通報
不明	横須賀市久里浜湾	不明	柴田(1972), 中村・川瀬(1976)	柴田(1972)による

横須賀市自然・人文博物館の標本記録台帳には, アオウミガメ1個体(標本台帳番号223), タイマイ1個体(同224)の記録があるが, それ以上のデータが不明であったので, 今回の記録には載せなかった。

表2. タイマイの記録.

日時	場所	状況	文献	備考
1961.08.	湯ヶ原(湯河原?)沖	漂着, 死体	中村・川瀬(1976)	甲長推定35cm, 村岡健作氏の情報
1970.08.22	横須賀市走水沖の東京湾第2海堡付近	捕獲, 生体	中村(1973), 中村・川瀬(1976)	甲長26.8cm, 甲幅21.2cm, 体重2160g, 神奈川県立博物館標本, 釣針にかかり水深35~40mの所から引き上げられた
1970.11.05	葉山町真名瀬沖	捕獲, 死亡	中村・川瀬(1976)	葉山しおさい博物館標本, 甲長28.0cm, 甲幅22.3cm, 体重2600g
1972.06.	真鶴町岩沖	捕獲, 生体	中村・川瀬(1976)	甲長約35cm, ダイバーによる捕獲, 鈴木博氏の情報
1977.12.24	葉山町名島沖	定置網	中村(1980)	甲長37cm, 体重6kg, 捕獲して江ノ島水族館に収容
1979.12.21	横須賀市泊町沖200m	捕獲, 生体	中村(1980)	甲長45cm, 体重25kg, カレイ刺し網による捕獲, 収容後放流
1985.春	横須賀市長井沖	定置網(小型)	池田氏情報(未発表)	甲長65cm, 確認のみ, 池田氏確認の中では最大個体
1990	大磯町沖	定置網	神奈川県水産課資料	江ノ島水族館に寄贈
1990	平塚市沖	定置網, 2個体	神奈川県水産課資料	放流
1992	横須賀市長井沖	定置網, 2個体	神奈川県水産課資料	うち死亡1個体
1998	三浦市下宮田沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1999.01.14	葉山町沖	捕獲, 生体	江ノ島水族館記録	曲甲長49cm, 曲甲幅44cm, 正次丸(船)が捕獲, 江ノ島水族館で飼育

表3. オサガメの記録.

日時	場所	状況	文献	備考
1955.5(?)	三浦市諸磯海岸	捕獲, 生体	読売新聞神奈川版 1955. 05. 26付, 柴田 (1968), 中村・川瀬 (1976)	東大油壺臨海実験所に入る, 捕獲 日, 個体数の記録なし
1958.05.03	横須賀市芦名海岸	定置網, 2個体	中村・川瀬(1976)	2個体とも甲長約150cm, 大謀網に かかり江ノ島水族館に入る, 死後 に標本とする, 広崎氏の情報(西 村(1964)の1958. 06, 柴田(1968) の横須賀市佐島の個体と同一) 全長3m級
1959頃. 秋	葉山町海岸	漂着, 死体	池田氏情報(未発表)	全長2. 3m, 甲幅1. 0m, 体重380kg
1963.08.26	三浦市南下浦海岸	漂着, 死体	産経新聞横浜版 1963. 08. 28付, 中村・川 瀬(1976)	
1972.08.22	横須賀市長井沖	定置網	中村(1973), 中村・川瀬 (1976)	甲長103. 0cm, 最大甲幅59. 5cm, 雌, 網にかかり死亡
1977.07.15	真鶴町大ヶ窪海岸	漂着, 死体	神奈川新聞1977. 07. 17 付	記事ではクサガメと書かれてい るが, ウミガメであって, 子供が 背中に乗ったとの記載あり
1985.08.06	三浦市城ヶ島西方沖	捕獲, 生体	樺沢氏情報(未発表)	甲長109cm, 甲幅68cm, 体重 116kg. 神奈川県水産試験場調査 船「江ノ島丸」が浮き延縄漁中 に釣り上げる。油壺マリンパーク で飼育したが, 約1ヶ月後死亡
1995.08.05	横須賀市長井沖約1km	目撃	工藤氏情報(未発表)	推定甲長約2m, 水面浮遊し休息中 の個体を目撃
不明	藤沢市片瀬東浜	漂着, 死体	志村氏情報(未発表)	古い目撃例

表4. アカウミガメの記録 (追補).

日時	場所	状況	文献	備考
1996	三浦市諸磯沖	定置網, 3個体	神奈川県水産課資料	放流
1996	横須賀市津久井沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1996	横須賀市(?)	漂着, 死体	神奈川県水産課資料	漂着埋葬
1997	三浦市諸磯沖	定置網, 7個体	神奈川県水産課資料	放流
1997	三浦市下宮田沖	定置網, 8個体	神奈川県水産課資料	放流
1997	横須賀市佐島沖	定置網, 20個	神奈川県水産課資料	放流
1997	真鶴町岩沖	定置網, 10個	神奈川県水産課資料	死亡, 埋葬
1997	真鶴町真鶴岬沖	定置網, 6個体	神奈川県水産課資料	一部飼育
1997	横須賀市津久井沖	定置網	神奈川県水産課資料	放流
1997	横須賀市(?)	漂着, 死体, 2個 体	神奈川県水産課資料	埋葬, 横須賀市自然史博物館よりの 情報
1997.06.10	鎌倉市材木座海岸	上陸, 産卵	江ノ島水族館記録	卵を発掘調査, 卵2個のみ残存
1997.07.05	葉山町一色海岸	上陸	江ノ島水族館記録	交番からの通報, 発掘調査, 卵発見 できず
1998	三浦市下宮田沖	定置網, 2個体	神奈川県水産課資料	放流
1998	真鶴町真鶴岬沖	定置網, 6個体	神奈川県水産課資料	放流
1998.08.27	鎌倉市七里ヶ浜	子ガメ	江ノ島水族館記録	子ガメ約50個体
1999.07.14	小田原市御幸の浜	上陸	小田原市役所記録, 神 奈川新聞1999. 07. 16付	通報により後日掘り返し調査を したが卵は確認できず
1999.09.11	藤沢市辻堂海岸	子ガメ	江ノ島水族館記録	波打ち際で捕まえて水族館に持 込む, 甲長4. 20cm, 甲幅3. 57cm, 数 日後死亡. 1999. 09. 08にも5~6 個体が海に向かって歩いていた との通報あり

タイマイは10年毎にまとめると, 3~4個体ずつが記録されていた。オサガメは, 近年は10年につき1~2個体の確認にとどまる。

定置網の記録が存在する1989年から1998年の10年間に限ると, アオウミガメの年平均確認数は5.5個体(定置網では5.2個体)である。確認数には年変動があり, 全く確認されていない年もある。同時期のタイマイの年平均確認数は0.5個体で, すべて定置網におけ

る記録である。オサガメは年平均0.1個体で, 定置網調査には出現していない。一方, 同期間のアカウミガメの年平均確認個体数は23.9個体(定置網では18.6個体)で, 毎年来遊が確認されている(丸山・中村1998, 表4)。

自治体別確認個体数(表6)は, アオウミガメでは確認数の多い順に横須賀市20個体, 三浦市18個体, 鎌倉市12個体, 真鶴町4個体, 藤沢市2個体, 葉山

表5. 年別確認数.

年	アオウミガメ	タイマイ	オサガメ	アカウミガメ	合計	
～1960			4(2)	1	5(2)	
1961～1970		3	1	5	9	
1971～1980	3(1)	3(1)	2(1)	6	14(3)	
1981～1988	1(1)	1(1)	1	16	19(2)	
1989	1(1)			28(24)	29(25)	
1990	1(1)	3(3)		13(9)	17(13)	
1991	7(7)			37(34)	44(41)	
1992	11(11)	2(2)		12(8)	25(21)	
1993	12(12)			24(18)	36(30)	
1994				37(21)	37(21)	
1995	9(8)		1	10(8)	20(16)	() 内は定置網にお
1996				15(4)	15(4)	ける確認数. (-) は
1997	8(7)			56(52)	64(59)	データがないことを
1998	6(5)	1(1)		9(8)	16(14)	示す. アカウミガメ
1999		1(-)		2(-)	3(-)	は, 丸山・中村(1998)
不明	1		1	4	6	との合計数.
合計	60(54)	14(8)	10(3)	275(186)	359(251)	

町, 小田原市各1個体で, 県東南部の自治体が上位に並ぶ。相模川以東(川崎市～茅ヶ崎市)の53個体に対し, 相模川以西(平塚市～湯河原町)は5個体であった。タイマイ, オサガメでも, 横須賀市, 三浦市, 葉山町等の県東南部の自治体での確認数が多かった。また, 三浦半島先端の城ヶ島から西側を相模湾側, 東側を東京湾側と分けた場合, 東京湾側(三浦市東側沿岸, 横須賀市東側沿岸)で発見されたのは, アオウミガメ3個体, タイマイ2個体, オサガメ1個体のみであった。川崎市, 横浜市では上記の3種はいずれも記録されなかった。

今回のデータの中で確認時期が明らかなものについてみると, アオウミガメは3月から9月に, タイマイは春および8月から1月に, オサガメは5月から8月にかけて出現していた。

考 察

今回の記録においては, 神奈川県水産課がまとめた定置網における確認情報(神奈川県水産課資料)が大きな割合を占めている。この情報は, 水産課が漁業者その他に依頼して集めたものである。漁業者に対しては, 甲羅の形状, 前方から見た図などのウミガメの判別点についての説明がなされており, 種の判別が難しい場合に漁業者から水産試験場への問い合わせが行われた例もあるとのことであるが, 特にアオウミガメとアカウミガメについては混同がないとは言い切れない。しかし, これについての検証は不可能であるので, ここでは, 種の同定が正しいものとして考察を行う。定置網での記録は, 月別の情報が含まれていないため季節的な変動に関する分析が難しいこと, 漁業者ごとの調査精度に差があるのではないかと考えられること等の問題点はあるものの, これまでわずかな情報しかなかったウミガメ

類の来遊状況について貴重なデータを提供していることは間違いない。

3種の確認数の自治体別順位, 県東部の自治体で多く確認されていること, 東京湾側の確認数が少ないことなどは, アカウミガメ(表6, 丸山・中村, 1998)とよく似た結果であった。アオウミガメ, アカウミガメとも相模湾中部(藤沢市～大磯町)の定置網での確認数が少ないことも共通していた。これらの地域差を生じさせる要因としては, 海流, 海底地形による索餌条件の違い, 定置網の設置数, 定置網の種類の違いなどが考えられる。

次に3種それぞれについて考察する。

1) アオウミガメについて

アオウミガメの確認総数は60個体であった(表1)。一方, アカウミガメは, 丸山・中村(1998)によって報告された203個体に今回1996年から1999年のデータを加えたことで, 確認総数が275個体になった(表5, 表6)。神奈川県では産卵しないアオウミガメは, 上陸・産卵時における確認がないことによって, アカウミガメに比べ発見される確率が低くなっているのではないかと考えられる。そこで, 両種が発見される条件の差が小さいと考えられる1989～1998年の定置網の記録のみについて確認数を比較した。アカウミガメ186個体に対しアオウミガメは52個体で, アカウミガメに対するアオウミガメの比率は0.28であった。アオウミガメは北海道室蘭以南の日本列島各地の海岸で記録されているが(江ノ島水族館, 1970: 菅沼, 1994), 小笠原, 屋久島, 南西諸島などの産卵地を除けば確認個体数は少なく, 水産庁の希少水生生物検討委員会で希少種と判定されている(菅沼, 1994)。神奈川県におけるアオウミガメも, これまでごく少数の個体の記録しかなかったことから偶来種(浜口,

表 6. 自治体別確認数.

自治体	アオウミガメ	タイマイ	オサガメ	アカウミガメ	合計	定置網数
川崎市					0	
横浜市				3	3	
三浦市	18(17)	1(1)	3	42(37)	64(55)	7
横須賀市	20(18)	5(3)	4(3)	73(66)	102(90)	5
葉山町	1(1)	3(1)	1	10(5)	15(7)	2
逗子市				5(2)	5(2)	1.5
鎌倉市	12(10)			45(22)	57(32)	3
藤沢市	2(2)		1	8(0)	11(2)	3.5
茅ヶ崎市				6(0)	6(0)	4.5
平塚市		2(2)		3(0)	5(2)	2
大磯町		1(1)		9(0)	10(1)	0.5
二宮町				8(4)	8(4)	2.5
小田原市	1(1)			12(4)	13(5)	4
真鶴町	4(4)	1(0)	1	39(37)	45(41)	2
湯河原町		1(0)		7(6)	8(6)	1
不明	2(1)			5(3)	7(4)	
合計	60(54)	14(8)	10(3)	275(186)	359(251)	38.5

1995)とされていたが、今回の結果により、従来考えられていたよりは多くの個体が継続的に来遊していることが分かった。

アオウミガメ、アカウミガメとも年毎の確認数はかなり変動する(表5)。両種の定置網における年毎の確認数を1989~1998年の記録について比較したところ、有意な相関は見られず(t-test, $p>0.05$; $r=0.124$, $n=10$)、アオウミガメの出現の年変動に関わっている要因が、アカウミガメと異なる可能性が示された。

体長または甲長の記録があるのは5個体のみであるが、うち3個体は甲長40cm位までの若令個体で、残る2個体も、神奈川県海岸に最も近い産卵地である小笠原における成熟個体の直甲長がメスで82.1~107.0cm(平均95.6cm)、オスで79.4~100.4cm(平均90.8cm)であること(菅沼, 1994)および曲甲長は直甲長より大きいことからみて、成熟に達する時期前後の小型個体であると思われる。

立川・佐々木(1990)は、小笠原で標識放流した498個体のアオウミガメのうち50個体が九州から千葉県沿岸まで(他に秋田, 台湾)の海域で再捕され、そのうち1個体は神奈川県で発見されたことを示し、小笠原諸島で産卵するアオウミガメが南日本の太平洋岸を中心とした日本沿岸を索餌海域としてしていると考えられると述べている。神奈川県沿岸を産卵域として利用しているアカウミガメでは、成熟個体が長期間にわたって沖合に滞留し、また、同じ個体が複数年に渡って来遊しているのではないかと考えられるのに対し、索餌域としてのみ利用しているアオウミガメが、どのくらいの期間にわたって滞留しているのか、来遊は未成熟期~成熟開始期に限られているのか、同じ個体が何回も来遊しているのか、また、年毎の出現数の増減がどのような条件の影響を受けているのかなど、今後解明すべき問題は多い。

2) タイマイについて

タイマイの甲長については、老成個体で90~100cmで、世界各地の産卵メスの平均が78.1cm(内田 1982a, b)、また、世界各地の産卵メスの直甲長が最小53.3cm、最大93.5cm、各産卵地の平均値は66.0~83.3cmで、

日本近海の個体群では直甲長70cm以上で成熟の可能性がある(亀崎, 1994a)などのデータが示されている。神奈川県で確認された個体は、甲長が最大でも65cmにとどまり、ほとんどが26~50cmの範囲に収まることからみて若令期の個体と考えられる。

月別の情報が含まれた記録についてみると、出現季節は春季から冬季に及んでおり(表2)、3種の中では出現季節の幅が広がった。亀崎(1994a)は、タイマイの産卵域、生息域がすべてのウミガメの中で最も熱帯域に偏っていることを述べ、(孵化が可能期間が長い)産卵期が他のウミガメより長く、季節的にも分散して産卵する傾向があるという報告(Carr & Stancyk, 1975)を紹介している。他種に比べ産卵期の幅が大きいことが、出現季節の幅に関係している可能性が考えられる。

日本での恒常的な生息域は南西諸島に限られており、時折北海道から九州の沿岸にも来遊する(亀崎, 1994a)とされている。今回の記録でも確認数が少なく、偶発的な来遊と考えられる。

3) オサガメについて

オサガメは国際自然保護連合のレッドデータブックおよび水産庁の希少水生生物検討委員会において絶滅危惧種とされている(亀崎, 1994b)。今回の記録でも10個体が確認されたにすぎない。

本種は特徴のある姿をしているため他の種との混同はまずないと考えられるが、これまでのところ神奈川県水産課の定置網調査の記録には出現していない。オサガメは外洋性の種とされており(亀崎, 1994b)、定置網での確認が少ないのは、定置網が張られる水域よりも外洋側に来遊しているためではないかと考えられる。

内田(1982b)によれば、オサガメの産卵個体の甲

長は平均150cm, 最小120cm, 最大181cmである。亀崎(1994b)も世界各地の産卵個体群の直甲長をまとめ、ほぼ類似の数値を示している。今回の記録の中では、正確な測定値ではないが全長2.3mと3m級および2m級の個体は成熟個体であろうと考えられる。真鶴町で発見された死体は、子供達が背中に乗ったとの記載があることからみて小型の個体ではなかったと思われる。志村和子氏の観察した個体も大型だったといい、また、今回の記録には載せていないが、江ノ島水族館職員の記憶によれば、数年前に体長約2mのウミガメが藤沢市鵠沼海岸に腐敗死体として上がったとのことで、体長から考えると、この個体もオサガメ成体であった可能性が高い。一方、甲長103cmと109cmの個体は未成熟個体と考えられる。今回の記録を見る限り、オサガメでは成熟個体が多く観察されているが、アオウミガメ、タイマイで主として若令個体が観察されているのに対し、オサガメで成体の比率が高いことは興味深い。

オサガメが発見された時期は、5月から8月にかけてである。西村(1964)は、本州太平洋岸においては、オサガメは南東季節風卓越期(5~9月)に観察されるとしているが、今回の結果もこれに当てはまる。一方、八丈島では、3~4月に3例の捕獲記録がある(三木, 1989)。太平洋および大西洋の熱帯部を主な生息地とし稀に温帯域に出現する(内田, 1982a) オサガメは、日本近海では黒潮に乗って移動すると考えられているが(Nishimura 1964, 亀崎 1982), 2つの地域の出現時期の差が何に起因するのか、例えば八丈島から神奈川県に移動する経路があって移動の時期によって出現時期のずれが生じているのか、あるいは、別の経路による移動であって時期がずれているのかなど、検討すべき課題であろう。

おわりに

3種のウミガメ類の記録を収録した結果、これまで少数の個体が不定期に確認されていたのみで偶来種と考えられてきたアオウミガメが、継続的に来遊していることが分かった等、ウミガメ類の生息状況を把握する上で、定置網等による調査の重要性が示された。

今後、調査を進めていくには、他種のウミガメとの識別が正確になされるための、種の同定の精度を高める体制作りが必要であり、また、甲長等の計測についても同様に統一されたマニュアルに基づく精度の高いデータを得る必要がある。放流に際しては、個体標識するなどの処置が必要であろう。

謝 辞

情報の収集に当たり、神奈川県水産課の船木 修

氏、原田 穰氏、神奈川県水産総合研究所の工藤孝浩氏、京急油壺マリパークの樺沢 洋氏、横須賀市自然・人文博物館の林 公義氏、葉山しおさい博物館の池田 等氏、江ノ島水族館の神応義夫氏、江ノ島水族館前職員の志村和子氏に大変お世話になった。また、日本ウミガメ会議の亀崎直樹氏に多くの御教示をいただいた。以上の方々および関係機関に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Carr, A. & S. Stancyk, 1975. Observations on the ecology and survival outlook of the hawksbill turtle. *Biol. Conserv.*, 8(3): 161-172.
- 江ノ島水族館, 1970. 飼育ウミガメ類の調査報告. 動水誌, 12(4): 81-87.
- 浜口哲一, 1995. 爬虫類. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学), (7): 137-139.
- 亀崎直樹, 1982. オサガメの捕獲. エコロケーション, 2(4): 1-2.
- 亀崎直樹, 1994a. タイマイ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(Ⅰ), IV. 両生類・爬虫類. pp. 479-491.
- 亀崎直樹, 1994b. オサガメ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(Ⅰ), IV. 両生類・爬虫類. pp. 519-530.
- 丸山一子・中村一恵, 1998. 神奈川県におけるアカウミガメの記録. 神奈川自然誌資料, (20): 33-38.
- 三木 誠, 1989. 八丈島で捕獲されたオサガメ. うみがめニューズレター, (4): 8.
- 中村一恵, 1973. オサガメとタイマイについて. 神奈川県立博物館だより, 5(6): 5.
- 中村一恵, 1977. 三浦半島で捕獲されたアオウミガメ. 横須賀市博物館報, 23: 33.
- 中村一恵, 1980. 相模湾・東京湾における最近のタイマイの記録. 神奈川自然誌資料, (1): 83-84.
- 中村一恵・川瀬ツル, 1976. 三浦半島周辺で捕獲されたウミガメ2種とウミヘビ1種について. 横須賀市博物館報, (22): 37-40.
- 西村 三郎, 1964. 日本近海におけるオサガメの記録. 生理生態, 2(1/2): 286-290.
- Nishimura, S., 1964. Considerations on the migration of the Leatherback turtle *Dermochelys coriacea* (L.), in the Japanese and adjacent waters. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 12(2): 177-189.
- 柴田敏隆, 1968. 三浦半島の爬虫類相. 横須賀市博研報 自然, (14): 95-102.
- 柴田敏隆, 1972. 三浦半島の爬虫類. その1 トカゲとカメのなかま. 横須賀市博物館教育資料シリーズ, 14. p.11.
- 菅沼弘行, 1994. アオウミガメ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(Ⅰ), IV. 両生類・爬虫類. pp. 469-478.

立川浩之・佐々木章, 1990. 小笠原諸島における成熟アオウミガメの標識放流調査. うみがめニューズレター, (6): 11-15.

内田至, 1982a. 海ガメ学入門 (I), 現生海ガメ類の形態と分類. 海洋と生物, 4(5): 1-7.

内田至, 1982b. 海ガメ学入門 (II), 繁殖の生態. 海洋と生物, 4(6): 1-9.

[訂正] 丸山・中村 (1999) 「神奈川県におけるアカウミガメの記録」における「湘南なぎさ事務所記録」を「かながわ海岸美化財団記録」に, 小田原市岩沖を真鶴町岩沖に, 小田原市福浦沖を湯河原町福浦沖にそれぞれお詫びして訂正します。

(丸山: 神奈川県藤沢市辻堂4-3-22,
中村: 神奈川県立生命の星・地球博物館)